

福岡

福祉活動専門員の

ま な こ

社協活動前進のために

No.22 1985年10月発行 福岡県専門員連絡会 まなこ編集委員会 印刷 ひかり共同作業所

地域社会とも孤立

—— 父子家庭調査より ——

大野城市 河上洋子

種々の在宅サービスを推進している中で、何となく実態がつかみにくいのが父子家庭である。父子家庭実態調査を実施し、早急にニーズの把握をしなければならぬと思っていた矢先、A区より情報が入った。すぐに飛んで行く。手の施しようもない家中、その悪臭は耐えがたきで、ただ啞然としてしまった。全職員一日間、悪戦苦闘の末、何とか人間の住居となった。小学校五年生を頭に三兄妹、父親は賃仕事で、収入がない時は食べない日もあると聞く。学校の給食をたのしみに学校に行くと言う。何ともやり切れない気持ちである。

同じ父子家庭でも父親自身に経済力があれば、再婚のチャンス、家政婦などの雇用ができ維持されるであろうが、職業の不安定に加えての飲酒癖のため育児、家事、就労と二役をこなす能力に疲れ果ててしまう父親が多いのではないだろうか。地域社会とも孤立し近所付合

もない。しかし子供たちは、生来の子どもらしさや明るさを失わず遊び廻っている様に見受けられるが、内面的には母親の居ない空虚さに、じっと耐え忍んでいないだろうか。母子家庭においても父親のいない家庭的機能の欠損には変りないが、母子と父子家庭を見比べると大きな違いがあり、女性の母としての強さが思われる。

福祉施策にしても母子家庭に比べて、父子家庭にはまったく援助対策がなされていない。特に低所得階層になるほど問題が複雑になりみ合い、多くの困難をかかえているし、特に子どもに対しては、家庭的機能の役割の欠如は、子どもの将来において健全な心身の成長を大きく阻害していると思われる。これらのつかみにくい実態にどう対処するべきか、地域の中での深刻な福祉課題に対して、地域全体で考えていかねばならない。

まだ満足して間もないが福祉委員会、推進委員会があり、それら委員会は区長を始め民生委員、婦人会等とあらゆる関係者が入っている。この委員会の実践活動を期すると共に社協としても何とかボランティアやホーム

独居老人を励ます会に参加して

粕屋町 百田義彦

粕屋町社協では、老人福祉事業の一環として独居老人励ます会を去る五月十四日に開催しました。この事業は町内に居住しておられる七十才以上の一人暮らしの方々を招待して、ささやかな中食会を実施するものです。当日は四十二名のお年寄りの方に、社協の役員やホームヘルパーさん達が附添って目的であるつつじの名所、須恵町の恵山閣に出掛けました。



ヘルパーの導入を考え、これから先の在宅サービスの充実が一層計られるよう努力しなければならぬと思う。

粕屋町社協では、老人福祉事業の一環として独居老人励ます会を去る五月十四日に開催しました。この事業は町内に居住しておられる七十才以上の一人暮らしの方々を招待して、ささやかな中食会を実施するものです。当日は四十二名のお年寄りの方に、社協の役員やホームヘルパーさん達が附添って目的であるつつじの名所、須恵町の恵山閣に出掛けました。

来た皆さんから「今日のこの日をきっかけに、お互いにお茶のふ友達をつくり、毎日を楽しく語り合いながら一日でも長生きをして下さい。」と激励の挨拶の後、乾杯で長寿を祝いました。ふだんから話し相手もなく、一人淋しい生活をしいられてお年寄りにとって、このような会合は本当に楽しい一日であ

ある専門員からの手紙

各市町村社協のレベルにあった 段階別の教育や指導方法を!!

私は、働き甲斐のある仕事を求めて(というが大変カッコよく聞こえますが)社協に転職した者です。

再就職して早くも1年になりますが、無能な私は駐在員が来るたびに怒られ、県社協に行くたびに冷たい視線をあげ、県共募に呼びつけられては「予算書の作り方がなっとらん」と、カミナリを落とされ、また、先輩の専門員諸氏が来られては「青白い顔をしたらんで、もつと外に出て仕事をせなつまらんバィ」と、ハツバをかけられる。そんな暗い毎日をず〜と過ごしてきました。

おかげで、転職前までは心身ともに健全なヒョーキン青年だった私も、すっかり根クラのカビくさいオッサンになりました。これは私の専門員としての能力と資質のなさ、そしてファイトと努力不足に大きな原因があることは、まされもない事実であり、批判されて当然のことではあります。

しかし、私はひとこと言いたいのです。
はじめて職に就いた者や丸つきり分野のちがう職業に再就職した者に対して、一泊や二泊の形ばかりの研修以外にまともな

教育や具体的な指導も行わずに、言いたいことを言い、怒り、あきれかえる県社協・県共募の方々、あなた方は現在の指導体制が適正で、新任職員がすぐに社協や共募の組織や内容を、そして、すべき事を正しく理解し実践に取り組んでいるとお思いでしょうか?

最近の新任専門員諸氏は有能で、体験豊富な即戦力になる方が多く入って来られているようですが、中には数年前の私のように、場ちがいな就職をしてしまい、エリート集団の落ちこぼれとしてつらい毎日を送っている人が、なきにしもあらずだと思います。

新任職員が県社協や県共募の指導だけでは右も左も理解できぬとするならば、近隣や他社協の諸先輩方からご指導をいただければ良いのでしょうか、どこの社協も少人数(の安月給)で時間に追われて一所懸命働いていて、他社協のお世話をする余裕などないでしょうし、自社協の職員もその道に浅い人ばかりとなると、やっぱり県社協や県共募の指導をいただかねばなりません。

ところが、県社協や県共募の上層部の方々は、専門員の中でも

神祕的存在の方に対してはいつてもニコニコと自主的にお声をかけていらつしやるのに、劣等専門員に対しては常に冷ややかで、ローカですれちがっても見て見ぬふりというのが現状で、これでは劣等専門員がいっそ県社協に寄りつきにくくなり、落ち込むのも無理はないと思います。

県社協は、民間地域福祉推進団体の頂点にあって、市町村社協を指導する立場にあるわけですが、相手によって態度を変えるのはその心の奥底になにかしらの差別意識をもっているらつしやるからではないでしょうか?

県社協が、福岡県民の福祉の向上を地域の隅々まで浸透させることを本心に願うならば、もつと市町村社協を細部にわたつ

て丁寧な平等に指導していただきたいと思うし、各市町村のレベルにあった段階別の教育や指導方法を取り入れるべきだと思います。

正直に言うとう、私はハイレベルの研修会を開かれても身近にとらえきれない部分が多分にあります。生あくびの連続です。

県社協が専門員の資質向上に努力していらつしやるのはよくわかりますが、一方的な視点でとらえてばかりいては私のような劣等生はとてもついて行けません。

落ちこぼれを拾いあげてこそ、真の福祉の充実がはかれると思えます。

県社協殿、劣等専門員を見捨てないでください。

▼私の要望▲ レベルに合わせた研修を

広川町 青山 忍

従来、局長兼専門員と専任職員(の二人体制)の事務局だったのが、今年からは事務局長と専門員と呼ばれ方が変わったというだけで、中味は何ら変わっていないのが現状です。

今までもそうであった様に、専門員が専門員として働くには、机の上でだけしか仕事が出来ない有様であること。福祉団体の事業を持っているからだろうと思いますが、何度も検討したの

ですが切り離せずにいます。こんな状況の中で社協活動ですので、先進地社協の真似ごとばかりで心苦しく思っています。

今後は、県社協も大変だろう

とは思いますが、レベルに合わせた研修や指導をしていただけたらと希望します。素人ばかりの社協ですので、適切な指導、教育が本当に必要だと痛感しています。

お返しをおこたるな

新宮町 森 菊郎

地球上の人類が間もなく五十億人になろうとしているが、先進国といえどもこれからの生き方は、食糧問題を始め敵しくなばかり、必然的にお互いの助け合いが強調され、身勝手な言動をする者は落ちこぼれていかざるをえないことになるでしょう。

が、これからは第十二条と第十三条にある公共の福祉について、幅広い人達によって心を冷してじっくり考えられることになりましょう。自由、権利、尊厳、責任についても見直しの必要が迫っていることは衆知のとおりです。

また、税制審議会が最も苦慮していることは税の公平ということですが、これを福祉費として、一部に片寄らないよう、平等に配分することの方がもっと至難とされています。このことも代表者任せではいつまで経っても処理はできません。みんなで応援してやらねば、自分達の真の幸せは人任せではつかめない、自分自身でつかむしか、これしかない。

が取り入れられているが、利用者がない状態である。町の障害者の方々の現状をしてみると、病院への通院及び他へ外出する時など、介護者が大変困っていることがある。当社協として、地域のボランティアの人達と協力し、車イスを貸し出し手助けをしていくことで外出の機会を増やし、介護者の心労を少しでも軽くしたい。

槽を購入し、ねたきり老人及び重度障害者に対して入浴サービス事業を行なっている。この浴槽は、持ち運びは簡単であるが給湯する時、数名の介護者の手助けがないと入れることができない。そういった問題を解決するため、町内にある特別養護老人ホーム、あるいは精薄者施設に入浴への協力を求め、六十年間から入浴サービスを実施する運びとなった。

今までよりもっと辛抱せねば生きのびられない世相となつて、自主性のない人、甘える心を持った者は脱落していくにちがいない。

身上相談などで痛感させられる

ことは自立精神をうんと奮起させて、意識の改革をしてもらわねば、人に頼るくせを早く直してもらわねば、とても幸せなくらしには程遠いということ。憲法が公布され、第九条の戦争の放棄については、過去三十八年間熱い心で議論されてきました

一、車イス貸与事業について、現在の社会にあつて、障害者に対する差別と偏見はさけておれない課題である。障害者福祉という総論の段階で知識として理解するのではなく、障害者しかに接する以外にはないと思われるわが町は、他市町村に比べ

ると障害者への理解及び援助がまだまだ完全に行なわれていない状態である。働く意思を有しながら障害のために働けない人や、日常生活に他人の手を借りなければならぬ人も少なくない。身体障害者家庭奉仕員派遣事業など障害者福祉施策

障害者の外出

北野町 野瀬 光治

ふり回されて

刈田町 福山直樹

彼との付き合いが始まったのは、私が社協に入つてすぐです。から一年程になります。脳性マヒで、車イスの生活をしている彼は、北海道や与論島にまで一人旅をするのもしい青年です。はじめの頃は、事務所だけの付き合いだったのが、このところふり回されて(某専門員曰く)います。私がふり回されるのは平日の仕事、土曜日、休日、要するにいつでもです。ふり回されることで、私は自分

者と違う目で見ると、無くさねばと、そして無くなるであろうことを期待して、めんどろだめんどろだと思いつつ、積極的に彼に付き合われてきたのです。しかし、そうやって付き合いを深める？ほど私のめんどろさは大きくなっています。果



して私はいったいどういうふう
に、彼をわがものとしてるので
しょうか。まあ、こんなことを
言っても仕方ないことですが
……。

最近彼も、私の態度のぞんざ
かにお願いしたいものです。

わたしのとりくみ

吉井町 佐藤吉彦

わが社協は、一昨年より広報
活動に力を入れ、月一回の広報
紙を発行し、町民に対して社協

への理解と福祉に対する認識を
高めてもらうことに努めてきま
した。しかしながら、未だに社

協と役場行政とを同視する向
きは少なくないと言えます。また
ここにきて、従来の事業内容へ
の再検討も必要となってきました

社協に入り、早や一年が過ぎ
てしまいました。

最初は、目の前に起る出来こ
とが何かなにやらさっぱり分か
らず、自分ながら情けなく、満
足に出来ることといえば、掃除
ぐらいのものでした。これは今
もさほど変わりはなく、その点
以外では職場の同僚の期待を裏
切っているのですが……。

中央では現状のボランティア
ア活動をとらえて、隔世の感
がするとか、言葉として市民
権を得たとかはしゃいでおら
れますが、はたして実態はど
うなのかと疑問に思うのです。
実際、看板だけのボランティア
アセンターである我が市では
さつぱりなのです。一人の車
いす女性の課題にも応えるこ
とがデキマシエン。あなたの
町ではどうですか。

るようでもちよっとヤバイなあ
私は思うわけです。私が感じる
ところの市民のボランティア感
覚をあげてみると、
(1)ただ働らく人がボランティ
ア。ただ働らきしたことをボラ
ンティアしたとよく言っている。
(2)ただ働らく人がボランティ
ア。ただ働らきしたことをボラ
ンティアしたとよく言っている。

イアもそれに乗ってよく使われ
る。まさに安上り政策の一環と
しての、である。
(3)社協活動に協力する人。社協
が主体性をもった民間組織であ
れば問題ないが。
(4)する人とされる人は、やはり

気持ちで簡単にできるもので
はない。共に生きるとはどう
いうことなのかよく考えよう。
よく言われるボランティアの
性格の中でも、自由と主体性
と責任を強く言いたい。

以上のような現状から、行
政がボランティアを育成した
り、ボランティアとニーズの
橋渡しをすること(ボランテ
ィアバンク)については、不
安を覚えるわけです。このさ
い、ボランティア自らが地域
の課題を把握し仲間づくりを
進め、自由に活動を展開して
もらった方がよいのではない
でしょうか。私はそんな手助
けがしたい。

ボランティア雑感

大川市 永田啓造

ところで最近、国、それも
文部行政からボランティアの
振興をはかる動きがおこって
きました。私のイメージす
るボランティア観と一般的
市民感覚では、ずいぶんズレがあ

福祉従事者を、今日ではボラ
ンティアと言っているし、従事
者がかますボランティアであるべ
きた論が根強い。

対等ではない。相手に聞こえな
いように言う。「してあげてい
るのにあの人は……。」

最初教材が送られて来た時は、
通信教育など何のそのと学習計
画表は立派なものを作っていま
したが、夜机に向って
と誰かが囁くのです。「あまり
夜ふかしすると明日の仕事に差
し支をそそ」と、私もつい「先
は長い、今日の分は明日にしよ

から専門員

協と役場行政とを同視する向
きは少なくないと言えます。また
ここにきて、従来の事業内容へ
の再検討も必要となってきました

転換を迫られています。同様に
各種団体への援助についてもそ
の方法等の見直しが必要となっ
てきています。

そこで本年度の事業計画は、
従来の福祉活動、行事を改善し
ながら、(一)福祉講座の開催等
による福祉活動への理解、認識の
深化、(二)ボランティアの育成に

よる福祉活動の実践拡充、(三)福
社ニードの把握による活動内容
の適正化を、その重点目標に掲
げ推進していくとしています。

今年、私にとって社協に入
って最初の年でもあるので、ま
くお願いいたします。

協と役場行政とを同視する向
きは少なくないと言えます。また
ここにきて、従来の事業内容へ
の再検討も必要となってきました

転換を迫られています。同様に
各種団体への援助についてもそ
の方法等の見直しが必要となっ
てきています。

そこで本年度の事業計画は、
従来の福祉活動、行事を改善し
ながら、(一)福祉講座の開催等
による福祉活動への理解、認識の
深化、(二)ボランティアの育成に

よる福祉活動の実践拡充、(三)福
社ニードの把握による活動内容
の適正化を、その重点目標に掲
げ推進していくとしています。

今年、私にとって社協に入
って最初の年でもあるので、ま
くお願いいたします。

恥ずかしながら専門員

浮羽町 宮崎高義

わが社協は、一昨年より広報
活動に力を入れ、月一回の広報
紙を発行し、町民に対して社協

への理解と福祉に対する認識を
高めてもらうことに努めてきま
した。しかしながら、未だに社

協と役場行政とを同視する向
きは少なくないと言えます。また
ここにきて、従来の事業内容へ
の再検討も必要となってきました

社協に入り、早や一年が過ぎ
てしまいました。

最初は、目の前に起る出来こ
とが何かなにやらさっぱり分か
らず、自分ながら情けなく、満
足に出来ることといえば、掃除
ぐらいのものでした。これは今
もさほど変わりはなく、その点
以外では職場の同僚の期待を裏
切っているのですが……。

中央では現状のボランティア
ア活動をとらえて、隔世の感
がするとか、言葉として市民
権を得たとかはしゃいでおら
れますが、はたして実態はど
うなのかと疑問に思うのです。
実際、看板だけのボランティア
アセンターである我が市では
さつぱりなのです。一人の車
いす女性の課題にも応えるこ
とがデキマシエン。あなたの
町ではどうですか。

るようでもちよっとヤバイなあ
私は思うわけです。私が感じる
ところの市民のボランティア感
覚をあげてみると、
(1)ただ働らく人がボランティ
ア。ただ働らきしたことをボラ
ンティアしたとよく言っている。
(2)ただ働らく人がボランティ
ア。ただ働らきしたことをボラ
ンティアしたとよく言っている。

イアもそれに乗ってよく使われ
る。まさに安上り政策の一環と
しての、である。
(3)社協活動に協力する人。社協
が主体性をもった民間組織であ
れば問題ないが。
(4)する人とされる人は、やはり

気持ちで簡単にできるもので
はない。共に生きるとはどう
いうことなのかよく考えよう。
よく言われるボランティアの
性格の中でも、自由と主体性
と責任を強く言いたい。

以上のような現状から、行
政がボランティアを育成した
り、ボランティアとニーズの
橋渡しをすること(ボランテ
ィアバンク)については、不
安を覚えるわけです。このさ
い、ボランティア自らが地域
の課題を把握し仲間づくりを
進め、自由に活動を展開して
もらった方がよいのではない
でしょうか。私はそんな手助
けがしたい。

ところで最近、国、それも
文部行政からボランティアの
振興をはかる動きがおこって
きました。私のイメージす
るボランティア観と一般的
市民感覚では、ずいぶんズレがあ

福祉従事者を、今日ではボラ
ンティアと言っているし、従事
者がかますボランティアであるべ
きた論が根強い。

対等ではない。相手に聞こえな
いように言う。「してあげてい
るのにあの人は……。」

最初教材が送られて来た時は、
通信教育など何のそのと学習計
画表は立派なものを作っていま
したが、夜机に向って
と誰かが囁くのです。「あまり
夜ふかしすると明日の仕事に差
し支をそそ」と、私もつい「先
は長い、今日の分は明日にしよ

から専門員

協と役場行政とを同視する向
きは少なくないと言えます。また
ここにきて、従来の事業内容へ
の再検討も必要となってきました

転換を迫られています。同様に
各種団体への援助についてもそ
の方法等の見直しが必要となっ
てきています。

そこで本年度の事業計画は、
従来の福祉活動、行事を改善し
ながら、(一)福祉講座の開催等
による福祉活動への理解、認識の
深化、(二)ボランティアの育成に

よる福祉活動の実践拡充、(三)福
社ニードの把握による活動内容
の適正化を、その重点目標に掲
げ推進していくとしています。

今年、私にとって社協に入
って最初の年でもあるので、ま
くお願いいたします。

協と役場行政とを同視する向
きは少なくないと言えます。また
ここにきて、従来の事業内容へ
の再検討も必要となってきました

転換を迫られています。同様に
各種団体への援助についてもそ
の方法等の見直しが必要となっ
てきています。

そこで本年度の事業計画は、
従来の福祉活動、行事を改善し
ながら、(一)福祉講座の開催等
による福祉活動への理解、認識の
深化、(二)ボランティアの育成に

よる福祉活動の実践拡充、(三)福
社ニードの把握による活動内容
の適正化を、その重点目標に掲
げ推進していくとしています。

今年、私にとって社協に入
って最初の年でもあるので、ま
くお願いいたします。

う。」とまぶたを閉じるのです。高く買います。社会福祉事業
ついついがあと十日で一学期の資格！
締切日なのです。

威張るな！ボランティア

田川市 十時智治

先日やっと、ふくしまつりが

終わったと思ったら、今度は「直方のようなフレンドシップ・ツアーをやるうや。その次は運動会、そして年の瀬にはもちつき大会なんかも……」

本当に何かとうるさい連中は
かりだ。

最近、ボランティアの名を語り、いつも事務局へ無断で出入りし、コーヒーをただ飲みしながらダベっている彼らは、暇と体力を持て余した青年たちである。

これまで、県社会保育短期大学生への依存度が高かった田川のボランティア活動も、今日では地元の青年たちの出現で、ずいぶんと変わったものだ。

若くてたくましく、何事にも情熱的なのがいい。それにも増して何がいかって？ それは理屈っぽいボランティア理論なんかは全くなく、ただ活動が楽しくてしかたがないこと。これ

アと威張って、アゴで社協職員を振り回すな。ボランティアと言ふ言葉は、何にでも効く正露丸ではないぞ!!
ボランティアに振り回される社協など、一昔前の田川では考えられない現象で、まさにボランティアに育てられた社協という感じだ。たまにはこんな社協があってもいいのではないかと
思いながらも、いつも社協に出入りする起爆剤みたいなボランティアを横目に見ながらニヤリとしている今日この頃です。

集まってみようか

田主丸町 穴見岩雄

わが農村の両筑ブロック（二市八町）の専門員は新旧交代著しい中、なんとか若手の専門員いずれも二十代ばかりが五人と五十%を占める状況になりました。

ブロック内では、研修という事で年に二・三回ほど専門員が集まり、新規事業や予算についての情報交換や親睦会を行なっています。そんな研修会の中で若さだけで親しくなった面々が、現状の研修会では物足りない（酒足らない）という意見が出され、今の研修会を否定する訳でなく、少し違った方向で現実に直面

している問題点を話し合い、問題解決、他の模範に？というような会合の場を何とか持ちたいと、両筑若年専門員研修会をかつてながら発会する事にいたしました。

早速、先月の十七日に発会式を兼ね、第一回の研修会を懇談会という形で持つてみました。色んな問題が出され、攻撃的に話が交わされ物別れに終わったものの、大変熱のこもった有意義な懇談会でした。
今後、若さ信念とみなさんの御指導、御鞭撻の元に若年専門員会の発展に全員一丸となって

シルバーボランティアづくり

夜須町 平田 茂

当るつもりですので、乞うご期待!!

町財政の逼迫の煽りを受けて社協に対する助成も削減され、事業の拡大計画は不可能となった現状の中では、できることといえば先づ頭に浮かぶのは、ボランティア活動の推進である。幸いにして、昨年度は県福祉基金からの助成を受け、諸資材の購入資金が確保されたので、本年度はシルバーボランティアグループの結成を目差し、夜須町老人クラブ連合会に呼びかけて、各単位クラブの中の高令者に対する簡単なサービスは単位のクラブの仲間で行ない、連帯意

識の高揚を図る。専門的技術を必要とする部門に関しては、連合会において登録し、単位クラブ会長を通じて申し込みを受け付け、必要な技術を必要家庭へ送り込む。これは必ずしも無料とすることはなく、少額ながら徴収することにより、受ける側の無用な遠慮心を取り除き、一方では長く継続するための資金作りの一助ともなることを考えている。
来年度には、ボランティアセンター設置を目差しして老人クラブの指導に努力したい。

▼私の要望▲ 情報や資料が欲しい

上陽町 中村 修

専門員になって約一年半になりますが、正直なところ、専門員とよべるような活動をしていないと恥かしくて言えそうにありません。在宅サービスにしろボランティアに対する取り組みにしろ、何ひとつ事業をおこなえ

ない現状です。力不足をなげいても何ひとつ解決できないし、研修をしてほしいと思います。それに、活動に関する情報や資料がほしいと思っています。

在宅福祉サービス考①

サービス実施と活動の固定化

筑後市 中山陽一

全社協が「在宅福祉サービス」を推進しはじめ、それが市町村社協の各段階に具体的なサービスとして展開されはじめて数年を経過している。

その目玉とされるのが、食事サービスと入浴サービスである。

各市町村の段階では、ここ二、三年の間に、「行政から要請されて」実施し始めたという社協の声をよく聞く。

このサービス、開始の手續や経過をみても、何かしら「上意下達」的な思いがするのは私だけだろうか。

はたしてこれで真に時代に答えるサービスとなり得るだろうかと思う。

料(上陽町と同じような町村部の社協の活動についての具体的な情報や資料というふうなもの)がほしいと思っています。

「化」することによって、それまでの社協活動にプラスされた仕事として定着してきた。(つまり、これまでの事業+食事サービス+入浴サービスという形に)

この部分は、動かすことのできないものとして現在に至っている。(少ない職員実態からして当然そうなることは、当初から予想されたことではある)社協とは、こんな仕事がいかに多いことか感心させられもする。

事業の固定化を避けなければならぬことが、かつて社会福祉協議会活動の合い言葉のようにも思っていたのだが、そのところは、私の錯覚だろうか。

「上意下達」的サービスのあり方は、今日の社会福祉協議会の体質を映し出しているようにも思える。

サービスの中味の検討ももちろんだが、そのサービスが、社

協の力量に沿った形で、展開されないがぎり、けつして理想的な在宅福祉サービスを創っていくことはできないと思うのだがどうだろうか。また、サービスが、「サービスのためのサービス」にならないためには、もつと下からのサービス、いや活動展開が必要と思うがどうだろうか。

(今回「在宅福祉サービス」について、今日的課題として、論議の必要があると思ひ書いた。また、サービスの中味の検討を進める必要も感じており、再び書いてみたいと思っている。)

よろしく おねがい します

役員の任期満了に伴う新役員の選出が四月二十二日に県社会福祉センターで会員の互選により行われ、次のように決定しました。

- 会長 松尾誠治郎(久留米市)
- 副会長 高石伸人(直方市)
- 監事 内野英雄(宗像市)
- 高橋晃治(柳川市)

- 平田 茂 (夜須町)
- まなこ編集委員
- 福山直樹 (刈田町)
- 委員長 十時智治 (田川市)
- 志水秀則 (福岡町)
- 宮田義明(筑紫野市)
- 野瀬光治 (北野町)
- 宮崎高義 (浮羽町)
- 中山陽一 (筑後市)
- 待鳥朋子 (瀬高町)

新着ビデオ

- 「ボランティアの輪」(社会奉仕活動センターの展開) 枚方市社会福祉協議会
- 「楽寿の園のボランティア」 楽寿会(静岡県)
- 「ふれあいの音がきこえる」(貴ちゃん夢工場) 夢喰人(名古屋市)
- 「福祉ってなんだらう」 天電厚生会(静岡県)
- 「細井夫妻と仲間たち」 加藤寿美江(東京都)
- 「地域福祉講座」 全六巻 右田紀久恵他編 中央法規 各巻二八〇〇円
- 「社会福祉の新しい道」 福祉組織の運営と課題 福祉の環境づくり ボランティア活動の実践 在宅福祉の展開 組織化活動の方法

図書コーナー

- ◆「現代民話考」 全五巻 松谷みよ子 立風書房 各巻一八〇〇円
- I 河童 天狗、神かくし
- II 軍隊
- III 偽汽車、船、自動車の笑い と怪談
- IV 夢の知らせ火の玉、ぬけ出した魂
- V あの時へ行った話、死の話 生まれかわり
- ◆「沢内村奮戦記」 太田祖電、増田進他著 あげび書房 一六〇〇円
- ◆「社会事業理論の歴史」 吉田久一 一粒社 一三六〇〇円

オー福祉があぶないゾー!!

いのちとくらし——人権——を守るために

生きることがあぶない

直方市 高石 伸人

困ったことだと多くの人が言う。

社会的に弱い立場におかれやすい人々の生活が脅かされている。私達の生命にかかわる改悪法案も国会審議の俎上にのぼり始めている。建て前では、障害者や老人や子ども達の生き難い世が、私達にとって安らかであるはずがない。しかし、とりあえず日々の暮らしに快適さを感じ、おしきせの文化生活に浸りきっている私などには、「ちゃんと生きていけるようにするために、いろんな諸条件を整備せよと要求する権利がある」としても、ちゃんと生きていけていないんじゃないかという錯覚がある。

どうも私には、私達が日本の近代化というものを、都市化や工業化というものをどのように見据えるのか。日常生活のただ中で、国家や企業の恩恵にどれだけあずかっているのか、(便利に使っているのか)といった

事実を根本から問い直していかないと、たとえば人民主権などという言葉も幻の旗印にしかすぎなくなってしまう。

国家に生活まることがめとられていて、そのベクトルの向きによって右往左往しているという実態の中からは、たとえば「人間の尊厳にふさわしい権利の保障」を要求するということが、はじめから反故にされていることと同じではないかとも思えてくる。

そもそも人間の尊厳とは何なのか。私やあなたのくらしの中でどれだけ実感されているのか。行政に権利を保障させていくための市民的連帯をどういう意識と生活の中味でつくり出しているのか。人間らしい生活とは何か。「共に生きる」という時の生きる中味とは何か。どのような生活の共同性を指しているのか。

実は、こうした曖昧さこそが、低福祉高負担のルールを敷かせ、一九八五軍事元年を内側から支えてきたという猛省が、今一人一人に必要だと思う。

福祉が危いということは、生きることの危機なのだということとを、もう一度、わが家の生活の中から問い直したい。

視点

筑後市 中山 陽一

私は最近、社会福祉協議会の専門ワーカーとして感じていることがある。

それは、社会福祉の問題が、きわめて「少数者」の問題だということである。

今日、在宅福祉サービスが叫ばれる中、そのニード論では、社会福祉要(欲)求の一般化、大衆化が言われているが、私には、私たちがもつとも手を付けなければならぬところに、非常にきびしい形で、「少数」の老人とか障害者、母子といった人々の問題が存在している、と実感している。

そして、この「少数」の人々は、私たちワーカーに「何をしているんだ」「私たちのことをどうしてくれんだ」と叫んでいるように思えてならない。

障害者の介護問題、就労問題、障害児の集団の場、発達保障の問題、痴呆性老人、ねたきり老人を抱える家族の問題、母子家庭における保育問題等々、これらの「少数者」の問題は、けっして無視していい課題ではない。

いや、当然のこととして解決されなければならない課題なのだ。しかし、これらの人々の課題は、それを「多数」の人々に知らしめ、理解せしめていくこと、さらには、それを解決へとつなげていくことにおいて、至難の技と言わねばならない。

何故なら、理解しなければならぬ。多数「の人々もまた、今日の社会では、そのスピードに乗り遅れまいとして生活に追われ、精一杯の毎日であるからである。『分断された社会』がそこに見えるのである。

ある「人権」が無視され、侵害される時、もう一つの「人権」が無視され、侵害される。そしてこの悪循環が、切り捨て「落ちこぼし」社会の全体をつくり出していく。まさに、この底面にいるのが、「少数者」なのであるまいか。

この視点に立った時、「少数者」の問題が解決される社会にあってこそ、他の「多数」の人々も安心して暮らせる社会もあるのではなからうか。

そう思う時、私たちワーカーの負わされるテーマ、それは、「少数者」の人権をきちっと中心基軸に据えて、取り組みを進めていくことではなからうか。

新人紹介

そろいました！
オシサンと(音)キヤル

福岡ブロック

◆ 粕屋町 百田 義彦



社協の業務内容が福祉という幅広い奉仕活動の団体である事の理解は、ある程度の知識はありましたが、専門員の立場からして、今後地域の福祉向上を盤づくりに対応せねばならぬかと思ふと非常に不安を覚えますが、努力致す覚悟であります。

筑豊・京築ブロック

◆ 筑穂町 松岡 勝典

厚生課長として社協の常務理事の役職にあられたので、社協については良く知っております。

方なのですが、抱負をおたずねすると、謙遜されて、「まず慣れることが先です」と慎重でした。

お酒はあまりやらず、タバコは吸われないうで、特にこれといった趣味はないとのこと。どうやら仕事一筋の方とお見受けしました。(井上記)

◆ 桂川町 仲光 志賀子



日陰から逆照射するウーマンパワーに期待。男性の「アゴ」に「ヘソの緒」からカウンターパンチを。(高石記)

◆ 嘉穂町 手塚 弘幸



彼は、愛知県の日本福祉大学社会福祉学部を最優秀な成績で卒業し、昨年八月一日、フルー

ツの里、嘉穂町社協に就職、毎日、元気に福祉活動しています。手塚治虫、いや手塚弘幸です。社会福祉の実践は、学校で習ったのとは大違いです。社協活動は人間関係が大切であることも覚えました。幸い筑豊ブロックの諸先輩は人間関係が密であると聞きます。ご指図を受けながら、私のこのスマイルで住みよい嘉穂町づくりに努力をしますので、県下の各先輩方応援をお願いします。(内田記)

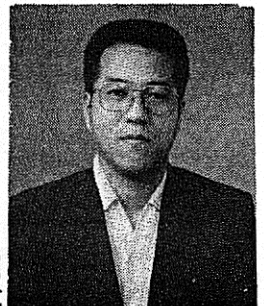
◆ 額田町 有吉 隆



額田町社協 有吉隆さんは、コミュニティづくりに日夜尽力されている三十一才の独身貴族です。趣味は読書をはじめ、あらゆるスポーツに万能と巾広く女性なら誰でも好感をもつ素適な方で、目下、可愛らしいお嫁さんをあせて募集しています。(野見山記)

◆ 椎田町 加来 宗 瑞

名前が示すように、加来さんは浄土真宗専広寺の長男として



◆ 瀬高町 待鳥 朋子
もちまえのやさしさと熱情をパワーに活動続けるオルガンイザ！
その人の言葉に、「運命とは勇動者が必要としない」がある。

編集後記

□あの四月二十一日、県センターで開かれた専門員連絡会で仲間の無責任な推選と陰謀によって(特に筑豊ブロックが...)これから二年間、仲間の独断と偏見で綴ったこの『まなこ』を担当させられることになった。



◆ 吉井町 佐藤 吉彦

岡筑ブロック

今年の春に西九州大学を卒業したばかりで岡筑専門員の中で最若手の二十二才。眼の奥には輝く「まなこ」は、めがねはかけていてもくもつてはいない。(高崎記)